

自 平成 27 年 4 月 1 日
至 平成 28 年 3 月 31 日

平成 27 年度 事業計画書

公益財団法人 情報通信学会

—学会活動の活性化の推進—

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

はじめに

情報通信やメディアが社会経済に果たす役割と責任はますます大きくなり、当学会の存在意義と果たすべき役割も大きくなっている。そのなかで情報通信に関する内外の研究者、企業人及び行政担当者にとって魅力ある学会とするため、学会誌、学会大会・研究会等における研究発表、学際・業際・国際的なフォーラム等の諸事業、関西センターの活動等、学会活動全般にわたり、学会活動の活性化を昨年度に引き続き推進する。

また、活性化施策のための財源を確保するため、従前の施策等の見直しによる経費の節減及び新規入会・寄付等の勧誘を進める。

1. 公益事業 1 学術大会、学際・業際・国際フォーラムの開催

学術大会及び学際・業際・国際的なフォーラムの開催は、学会員のみならず、広く外部からの参加を認めており、情報通信分野における総合的かつ学際的な研究に関する意見及び情報交換の場となっている。

本年度は、春（6 月）と秋（11 月）にシンポジウムを中心とする国際コミュニケーション・フォーラムと個人研究発表の場である学会大会を各 2 回開催する。通信の自由化 30 周年の年であることから、シンポジウムは「通信自由化 30 周年 次の 10 年に何が起きる（仮）」をテーマに、春と秋に違った切り口から検証する。なお、フォーラムは無料で一般に公開する。

(1) 2015 年度春季 情報通信学会大会と国際コミュニケーション・フォーラム

2015 年度春季情報通信学会大会及び国際コミュニケーション・フォーラムを 6 月 20 日（土）～21 日（日）、青山学院大学青山キャンパス（東京都渋谷区渋谷）において開催する。シンポジウム、個人研究発表（大学院生の部、一般の部）、研究会報告を行う。

国際コミュニケーション・フォーラムの一環として開催するシンポジウムは「通信自由化 30 周年 ユーザー・サイドからみたこれまでの 10 年、これからの 10 年（仮）」と題し、ユーザーの視点から通信の自由化により何が変わったのか、さらにこれから何が変わるのかを探る。

また、学会大会の個人研究発表にはすべて討論者を付け、発表の質の向上を目指すとともに、大学院生の部においては優秀な発表にアーリーバード発表賞を贈る。この大会は情報通信月間参加行事である。

*別紙 1 「2015 年度春季情報通信学会大会と国際コミュニケーション・フォーラム」

(2) 2015 年度秋季 情報通信学会大会と国際コミュニケーション・フォーラム

11 月に秋の国際コミュニケーション・フォーラムと情報通信学会大会を開催する。

シンポジウムは「通信自由化 30 年 事業者サイドからみたこれまでの 10 年、これからの 10 年（仮）」とし、政策担当者を迎え、事業者の立場から通信の自由化政策とこれからの展開を考える。

また、学会大会として、個人研究発表を行う。春の大会と同様にすべての発表に討論者を付け、発表内容の向上を図る。

*別紙2「2015年度秋季情報通信学会大会と国際コミュニケーション・フォーラム」

(3) 平成 27 年度関西大会

関西地区における情報通信関連の学会、団体とも連携を図り、互いに協力して秋にシンポジウムもしくはワークショップを開催する。

参加費無料で一般にわかりやすく情報通信分野の展望や問題点を紹介する。

*詳細は決まり次第、学会ホームページ等で周知を行う。

2. 公益事業 2 研究会等実施、機関誌等発行、研究顕彰事業

研究会等の事業として、研究テーマごとに年間 40 回程度の研究会を開催する。さらに情報通信分野におけるタイムリーなテーマを取り上げたワークショップを年 3 回開催する。これらの研究会、ワークショップは広く一般参加を認め、社会に貢献できるものとする。

また、学術論文の発表の場として年 4 回学会誌を発行し、掲載された論文の中から優秀なものに賞を与える。

(1) 研究会・ワークショップの開催

平成 27 年度は以下の 14 の研究会により約 40 回の研究会を関東地区、関西地区、中京地区で開催する。

また、情報通信ワークショップを年 3 回開催する。平成 27 年度第 1 回情報通信ワークショップは、「2020 年オリンピック・パラリンピックの成功に向けて一社会が変わる・ICT が変える」をテーマに開催する。

なお、これらの活動についてホームページ等で周知、報告を行う。

1. 情報通信法制・政策研究会
2. 情報経済研究会
3. 情報社会研究会
4. 国際情報研究会
5. 情報文化研究会
6. マルチメディア研究会
7. 情報行動研究会
8. モバイルコミュニケーション研究会
9. 情報知財研究会
10. 間メディア社会研究会
11. ICT 将来政策研究会
12. 情報通信経済法学研究会
13. ビッグデータ研究会
14. コンテンツビジネス研究会

*別紙3 研究会と情報通信ワークショップの年間スケジュール

(2) 学会誌の発行

学会誌を年4回(5月、9月、12月、3月)、電子媒体として発行する。紙媒体については、合本形式(5-9月、12-3月)で年2回発行する。合本形式での発行初年度にあたる平成27年度については経過措置として、5月号、9月号、および12-3月号の三巻を発行することとし、合わせて表紙デザイン変更等の所要の措置をとる。

投稿された「論文」および「論説」については査読を経て審査の上、「寄稿論文」については2014年度に新たに制定した「情報通信学会誌寄稿論文取扱規則」に定める手続きに従い、掲載する。学会誌には、シンポジウム講演録、研究会報告等も併せて掲載し、会員への有益かつ迅速な情報提供に努める。

さらに、学会誌の国際化等を推進するため、2014年度より進めてきた投稿関係英文資料の整備を引き続き実施する。

(3) 論文賞の授与

学会誌に掲載された投稿論文の中から優秀な論文を選び、優秀賞、佳作に対し、論文賞を学会大会総会において授与する。

3. 管理部門

活発化した学会の事業活動を支えるため、管理部門の基盤を固め、経費の節減に努めつつ、スムーズな事業活動支援を行う。

(1) 会員

学会の基盤となる個人会員の増強を図る。また、企業、団体にも賛助会員として協力を呼びかける。

(2) 業務執行体制

事務局業務については、業務の円滑化を進め、学会活動の活性化を支える。

(3) 情報発信と情報公開

学会活動の国際展開を踏まえ、ドメインを変更するとともに、ホームページをリニューアルする。英文ホームページについても段階的に充実を図る。

(4) 寄附

学会活動を広く周知し、これらの活動への理解を得られるよう努めるとともに、寄付を募り、学会活動の充実にあて、社会への貢献を行う。

(5) 資金運用の計画

平成 27 年度における資金の運用について、別紙 4 のとおり計画する。これをもって、学会の資金運用に関する規則第 3 条第 4 項に定める資金運用の計画とする。

*別紙 4 「平成 27 年度における資金運用の計画」

別紙1 2015年度春季 情報通信学会大会と国際コミュニケーション・フォーラム

開催日： 平成27年6月20日（土）、21日（日）

会場： 青山学院大学 青山キャンパス （東京都渋谷区渋谷 4-4-25）

テーマ： 「通信自由化30周年 次の10年に何が起きる」

開催主旨：

本年は通信自由化30周年にあたる。20周年からの10年間の大きなトピックに、融合法制、ビッグデータ、ICT利活用の一層の促進などがあげられる。もはや通信事業者の伝送路整備問題ではなく、融合化されつつある放送を含めたプラットフォーム&コンテンツ領域にも社会的課題が拡大している。そこで、次の40周年に向かう10年間に、何が起きうるのか、何を期待するのかを、政策者の視点、ユーザーの視点、事業者の視点から議論する。

プログラム：（予定）

6月20日（土）

<情報通信学会大会>

10:00～12:30 個人研究発表（大学院生の部 アーリーバード）

12:30～13:30 昼休み

13:30～14:00 総会

<国際コミュニケーション・フォーラム シンポジウム>

14:00～14:15 会長挨拶 及び 招聘校挨拶

14:15～15:15 基調講演*

「政策サイドから見たこれまでの10年、これからの10年」

15:15～15:30 休憩

15:30～17:30 パネル・ディスカッション*

「ユーザー・サイドからみたこれまでの10年、これからの10年」

18:00～20:00 懇親会

6月21日（日）

<情報通信学会大会>

10:00～12:00 個人研究発表・ポスターセッション

12:00～13:30 昼休み

13:30～17:00 個人研究発表・ポスターセッション・研究会報告

*基調講演者及びパネリストは折衝中、詳細は決まり次第学会ホームページ等で周知する。

参加費： 国際コミュニケーション・フォーラム シンポジウム 無料

情報通信学会大会 会員 2,000円 一般 4,000円

懇親会費： 4,000円

申込方法： 学会ホームページより申込み

協賛： 情報通信月間推進協議会（予定）

個人研究発表の募集要領

- (1) 応募方法：申込票（WORD / PDF）を学会事務局に提出してください。
- (2) 申込提出期限：平成 27 年 3 月 16 日（月）必着
- (3) 扱う分野：情報及びコミュニケーションに関する分野で産業や学術の発展に寄与する内容を持つ、独創性、新規性、有用性等の面で価値が認められる未発表のもの。
- (4) 予稿の執筆要領：
 - ・字数制限はありません。本文とは別に、表紙として A4 サイズ 1 枚に表題、氏名、400 字程度の要旨、5 つ程度のキーワードを記載してください。氏名のみ和英併記をお願いします。
- (5) 予稿の提出：
 - ・デジタルデータ（Word ファイルもしくは PDF ファイル）をメール添付で提出
 - ・予稿提出期限：平成 27 年 4 月 30 日（木）必着
- (6) その他
 - ・発表者は会員でなければなりません。共同研究者については会員、非会員を問いません。会員については会費の滞納がないことが条件です。
 - ・応募が多数となった場合、応募内容が不適切な場合には、研究企画委員会で審査を行い、発表者を選考することがあります。
 - ・発表には討論者がつきます。
 - ・予稿は学会ホームページにおいて公開されます。公開を希望しない場合は、研究企画委員会に届出が必要です。
 - ・発表申込後に発表の取消しがないよう計画をたてて申し込んでください。
 - ・アーリーボード（大学院生の部）が設置され、そこでの優秀な発表には表彰を行う予定です。

ポスターセッションの募集要領

- (1) 応募方法：申込票（WORD / PDF）を学会事務局に提出してください。
- (2) 申込提出期限：平成 27 年 4 月 30 日（木）必着
- (3) 扱う分野：情報及びコミュニケーションに関する分野で未発表のもの
- (4) 発表方法：当日、事務局より指定された掲示場所で発表。
- (5) ポスターの仕様と掲示
 - ・ポスターサイズは A1 サイズ 4 枚以内。各自、印刷して当日持参し、発表者本人が掲示してください。
- (6) その他：
 - ・発表者は会員でなければなりません。共同研究者については会員、非会員を問いません。会員については会費の滞納がないことが条件です。
 - ・応募が多数となった場合、応募内容が不適切な場合には、研究企画委員会で審査を行い、発表者を選考することがあります。

別紙2 2015年度秋季 情報通信学会大会と国際コミュニケーション・フォーラム

開催日： 平成 27 年年 11 月（未定）

会 場： 都内会場（未定）

テーマ： 「通信自由化 30 周年 次の 10 年に何が起きる

—事業者サイドからみたこれまでの 10 年、これからの 10 年— 」

開催主旨：

春に引き続き、「通信自由化 30 周年 次の 10 年に何が起きる」をメインテーマとし、事業者
サイドから考察する。

プログラム：

<情報通信学会大会>

10：00～12：30 個人研究発表

<国際コミュニケーション・フォーラム シンポジウム>

13：30～13：40 会長挨拶

13：40～14：40 基調講演

14：40～15：00 休憩

15：00～17：00 パネル・ディスカッション*

17：30～19：30 懇親会

個人研究発表及びポスターセッションの募集（予定）

募 集：個人研究発表 8月中旬～9月中旬 予定

ポスターセッション 8月中旬～10月上旬 予定

予稿提出締切：個人研究発表 10月中旬予定

*詳細は決まり次第、学会ホームページ等で周知する。

別紙3 研究会と情報通信ワークショップの年間スケジュール

<研究会>

1. 情報通信法制・政策研究会 年1回開催予定
テーマ等未定
2. 情報経済研究会 年1回開催予定
テーマ等未定
3. 情報社会研究会 年3回開催予定
第1回 6月 「4K&3Dの歴史と応用(仮)」
第2回 10月 「東北大地震の記憶を後世に伝える」
第3回 12月 「情報アクセシビリティ研究とS3D」
4. 国際情報研究会 年2回開催予定
テーマ等未定
5. 情報文化研究会 年2回開催予定
テーマ等未定
6. マルチメディア研究会 年2回開催予定
テーマ等未定
7. 情報行動研究会 年1回開催予定
第1回 6月 「情報行動の実態、経年的変化について(仮)」
8. モバイルコミュニケーション研究会 年3回開催予定
第1回 5月 「ゲームアプリ Ingress 人気の秘密」
第2回 6月 「ポストモバイル社会の展望」
第3回 10月 「バーチャルストアとスマートフォン」
9. 情報知財研究会 年8回開催予定
テーマ等未定
10. 間メディア社会研究会 年1回開催予定
テーマ等未定
11. ICT将来政策研究会 年1回開催予定
第1回 6月 「ICTの利活用に関する現状、将来展望及び政策等(仮)」
12. 情報通信経済法学研究会 年3回開催予定
テーマ等未定
13. ビッグデータ研究会 年3回開催予定
第1回 5月 「スマートフォンに関するビッグデータ分析の利活用(仮)」
第2回 6月 「ビッグデータ時代の放送事業者の異業種連携戦略(仮)」
第3回 10月 「ビッグデータ時代の新たな視聴者像(仮)」
14. コンテンツビジネス研究会 年6回開催予定

- 第1回 5月 「アイテム課金制度に見るモバイルゲーム・ビジネスの進化」
- 第2回 7月 「キャラクタービジネスにおけるマネタイズの仕組み」
- 第3回 9月 「コンテンツの国際競争強化・海外展開スキーム・海賊版対策」
- 第4回 11月 「アニメ産業の労働実態の考察」
- 第5回 1月 「デジタル著作権管理とマルチデバイス・プラットフォーム」
- 第6回 3月 「アーティストの360度契約とイベント興行」

<情報通信ワークショップ> 年3回開催

平成27年度第1回情報通信ワークショップ

日時： 5月12日（火） 18:00～19:30

場所： 都内会議室（調整中）

テーマ： 「2020年オリンピック・パラリンピックの成功に向けて
—社会が変わる・ICTが変える—」

登壇者： 蔵持京治氏（内閣官房副長官補室 内閣参事官／2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室併任）

加藤俊也氏（日本GE 復興支援・サステナブルシティ推進・オリンピック担当）

古谷純氏（日立製作所 デザイン本部 主管デザイナー／産業競争力懇談会 2020年の日本から広がる先端社会システムの実現プロジェクトメンバー）

他

*第2回目以降は、決まり次第学会ホームページ等で周知する。

別紙4 平成27年度における資金運用の計画

資金の種類 及び 年度期首における金額	運用の計画
A 基本財産 8,100 万円	
(1) 年度内に満期を迎えるもの 3,100 万円 ①みずほ銀行定期預金 （平成27年7月7日満期、額面800万円） ②みずほ銀行定期預金 （平成27年7月7日満期、額面200万円） ③ゆうちょ銀行定期貯金 （平成27年7月7日満期、額面100万円） ④大和ネクスト銀行円定期預金 （平成28年3月16日満期、額面1,000万円） ⑤横浜市平成17年度第5回事業公債 （平成28年3月29日満期、額面1,000万円）	満期到来時に、基本財産の運用対象として理事会の承認を得て資金運用細則に定めた預貯金及び投資有価証券へ、預け替え又は買い替えて運用する。 その際、発行体及び期間の分散に配慮することとする。
(2) それ以外のもの 5,000 万円 ⑥第315回大阪府公募公債 （平成30年6月27日満期、額面1,000万円） ⑦第392回大阪府公募公債 （平成37年1月29日満期、額面3,000万円） ⑧第45回利付国債（30年） （平成56年12月20日満期、額面1,000万円）	左記の有価証券により、引き続き運用する。
B その他の資金 1010 万円	
a 退職給付引当資産 180 万円 定額貯金・定期貯金	平成27年度の積立額36万円を含め、定期預貯金及び定額貯金により運用する。
b 周年事業基金積立資産 580 万円 定期預金	基本財産に準じ、現在運用中の定期預金を含め、基本財産に適格とされた運用対象により運用する。
c 公益事業促進基金積立資産 40 万円 MMF（マネー・マネジメント・ファンド）	評議員会の承認を得て平成27年度内に全額使用する。
d 公益目的事業1 寄付金 210 万円 普通預金	平成27年度内に130万円を使用し、残額を引き続き普通預金により運用する。